

原発はなぜ老朽化するのか

■ 日時

2016年7月16日(土)

13:30~16:30

■ お話

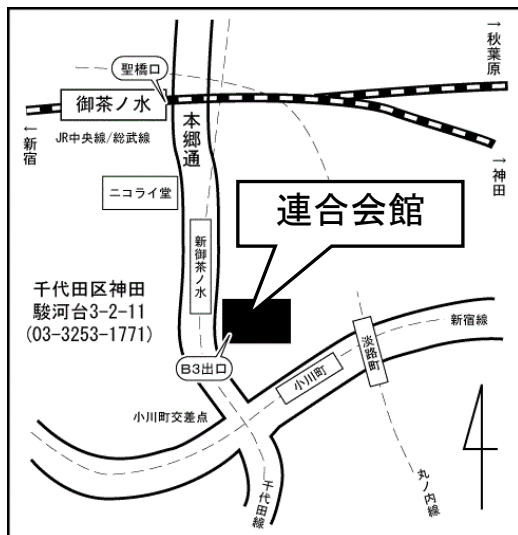
小岩昌宏さん

(京都大学名誉教授)

■ 会場

連合会館5階501号室

(千代田区神田駿河台 3-2-11)



■ 資料代

1,000円

(予定・予約不要)

■ 主催・お問合せ

特定非営利活動法人 原子力資料情報室

〒162-0065 新宿区住吉町 8 番 5 号 曙橋コーポ 2 階 B

TEL.03-3357-3800 FAX.03-3357-3801 cnic@nifty.com

<協力>原水爆禁止日本国民会議

“原子力発電所は40年で閉じるものとする。一度だけ、20年の寿命延長を認めるが、これは極めて例外的な措置である。”このルールが危うくなっています。

寿命延長のためには、国の審査に合格しなければなりません。この審査に問題点があるのではないかと小岩さんは主張してきました。さる5月12日、衆議院原子力問題調査特別委員会で菅直人さんがこの問題を取りあげ、国に対し30分にわたって質問、追求しました。

公開研究会では、小岩さんの主張を誰にでも分かるように、基礎の基礎から説明していただきます。原子炉の金属材料とは何だろうか、原子炉圧力容器は中性子を浴びるとなぜ劣化するのだろうか。寿命延長は、どういう危険をもたらすのだろうか。

この分野になじみのうすい市民のみなさんのご参加を歓迎します。

小岩昌宏さん

東京大学工学部冶金学科出身、金属材料物性学専攻、工学博士、京都大学名誉教授。

2008年から「新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会」の「設備健全性、耐震安全性に関する小委員会」委員を務める。東北大学金属材料研究所教授、日本金属学会会長などを歴任。